

石心会グループ

社会医療法人財団 石心会

社会福祉法人 石心福祉会

医療法人社団 東京石心会

海燕

うみつばめ No.63 2014年11月

発行人：石井暎禧

編集人：辻田征男 発行：石心会本部

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地

ソリッドスクエア東館4F

TEL 044-511-2266(代) FAX 044-540-1135

<http://www.sekishinkai.or.jp>

提言

病気は時と場所を選ばずに起こります。病気を得た人にとって、その治療には何よりも緊急性と適確さを求めます。それに対応するのが私たちの仕事です。

2013年11月に院長に就任したばかりですが、川崎市だけでなく、横浜市、東京都大田区に隣接する急性期病院として川崎幸病院の果たす役割の大きさを再認識しています。

患者さんのために、という姿勢

どんな社会でも人々がいる限り、医療は必要です。中でも急性期医療、救急医療は、病気の入口であり患者さんの生死を預かる重要な役割を担います。それを経て、患者さんはそれぞれの状態に応じて転院、施設、帰宅などによって社会復帰を図ります。

最近では、医療は一つの病院だけで治療を行う病院完結型医療から、多施設連携による治療つまり地域完結型医療にシフトしています。急性期医療からリハビリまで一つの病院で賄うことは、医療の効率性や財政的な観点からも新しい時代にはそぐわない状況になっています。医療施設の機能分担によって、より良い医療を提供することが求められています。石心会が先頭に立って地域全体へ質の高い医療を提供していくためには、全職員が一丸となって努力する必要があります。

急性期医療、救急医療は川崎幸病院の原点
あくまでも患者さんのための医療を目指す

笹栗 志朗・川崎幸病院院長

プロフェッショナルとしての自覚を

医療・福祉は常に変貌を遂げています。私たち自身が仕事の現状に満足することなく、よりよい医療を提供するため持ち場の仕事を改善する姿勢が必要です。

イノベーションを行うにあたって心がけたいのは、それが患者さんにとってどうなのかという問いかけです。私たちのスタンスは常に患者さんのための医療です。この立ち位置が、さまざまなノイズを消し、患者さんの満足度を高めることにつながります。

医療・福祉は、さまざまな専門性をもつプロフェッショナルの人々によって有機的に結合されたものです。例えば川崎幸病院では、この1年間に29項目、92人の新資格取得者を生み出しています。29の専門分野が独立して機能するのではな

く、有機的結合すなわちチームとして、患者さんのためという意識をいつも持ち、よりすぐれた医療・福祉

サービスを提供しなければなりません。



狭山市 市制施行60周年 一般功労表彰 さやま総合クリニックの狩野廣子・保健師が受章

2014年10月18日、狭山市の市制施行60周年記念式典が行われ、さやま総合クリニックの狩野廣子・保健師が、介護認定審査会委員として一般功労表彰を受けました。同章は、行政委員や自治協力員として狭山市の振興に功労があった人に送られるもので、25名が表彰を受けました。



狭山市の市制施行60周年式典での表彰

「狭山市 市制施行60周年記念 自治功労表彰を受けて」

さやま総合クリニック 居宅療養室・保健師 狩野 廣子

狭山市は昭和29年に、1町5カ村（入間川町、入間村、堀兼村、奥富村、柏原村、水富村）が合併し、県下15番目の市として誕生しました。

埼玉県心会病院（旧・狭山病院）は昭和62年（1987年）に設立され、私も昭和62年に入職、外来看護師、訪問看護師をへて退職し、現在はさやま総合クリニックの往診部門の看護師として働いております。

今回の表彰は、介護認定審査会委員として受けました。2000年に介護保険制度がスタートした時、私は訪問看護師として働いており、試験を受けて介護支援専門員となりました。狭山市の介護保険課の方々と、制度に沿った認定や介護保険のサービス活用について学びながら、「市民が使える介護保険を」との思いで働いてきました。

当初は認定審査や調査員も、人を調整したり、審査したりする事に戸惑いを感じ、仕事を終えた後に、市役所での勉強会を何度も重ねながら、参加していました。

また審査員も同様に戸惑いがありました。審査員は、



表彰を受けた狩野さん（右端）と、さやま総合クリニックの居宅療養室チーム

医師、福祉相談員、薬剤師、看護師（保健師）など5人の委員から構成され、二次審査を行います。慣れないために、それぞれの役職に気を遣い、最初のうちは遠慮して発言できない感じもありました。徐々に、それぞれの知識に基づいて発言するようになり、責任ある役割を果たせるようになっていったと思います。

私は訪問看護師として働いておりましたので、審査日になると石心会の仕事は休みを取ることになるため、職場に支えられて続けていくことができました。快く休ませて下さった石心会の皆さんの力は、とても大きく感じています。

2000年から2014年まで、長期にわたって務めてきましたが、マンネリ化しないよう気持ちを引き締めています。常に学ぶ姿勢を忘れず、制度が変化する時はその流れを捉えて審査することと、皆さんの日常生活をよく見て審査することを心がけています。

誰もが住み慣れた地域で、健康で元気に暮らしたいと思っています。高齢社会において多様なニーズにこたえ、生きがいを持った生活ができるよう、地域の方々に関わって行きたいと思います。

さやま総合クリニックの仕事外で、認定審査会の資料を読み込み、参加し続けるのは、正直なところ大変です。しかし、やがて自分も年齢を重ねることを思うと、いまこの仕事を出来る事に感謝しつつ働いています。今回の表彰は思いがけないことで、石心会の職員としてバックアップされてきたからこそと考えております。

今後は、障害者も自立した意識を持って生活できるよう、介護保険での関わりを通して、これからも審査会から小さなエールを送っていきます。

『女性がん検診デー』を開催

さやま総合クリニック健診センターでは、10月12日（日）に、『女性がん検診デー』と題し、女性限定の検診（乳がん検診・子宮がん検診）を実施しました。

毎年10月の日曜日に開催しており、診察の医師・検査技師、受付スタッフは全て女性が対応しています。

今回の乳がん検診は萩原美桜医師、子宮がん検診は片山美沙医師が担当しました。

平日は仕事や家事で忙しい女性に大変ご好評頂いており、毎回すぐ予約が満員となります。今年も総勢37名の女性の皆様にお越し頂きました。

地域の方々のニーズにお応え出来る

健診センターとして、毎年恒例の『女性がん検診デー』を、次回以降も開催を計画していきたいと思います。

渡邊絵美・さやま総合クリニック健診センター
emi-watanabe@saitama-sekishinkai.org



病院の方向と全ての課題にアプローチする 「川崎幸病院医療政策会議」

川崎幸病院医療政策会議は、今年4月7日初めての会議を開催しました。

メンバーは、笹栗志朗院長、山本晋医療政策担当副院長、原淳医療政策担当副院長、佐藤久美子看護部長、佐藤政延コメディカル部長、小林和彦・統括事務部長の6人。会議は毎週月曜日に約1時間開かれ、病院のあらゆる問題について検討が加えられます。

会議メンバーは、病院の全部署のリーダーであるため、取り上げられた課題は、問題に直面する部署はもとより、全部署の共有認識となります。課題は持ち帰

られ改善が図られ、再び医療政策会議で評価が行われます。

笹栗院長は、「この医療政策会議は、常に病院全体を改良・改革するための会議です。どんなに優れた病院でも、必ず問題が発生します。また、その問題を解決し続けるのが優れた病院ともいえます。全部署のリーダーに改善すべき諸問題を出してもらい、会議で方向性を出して、各部署に戻していきます。会議のスタンスはより良い病院を目指すことです」と、話しています。



10月27日の医療政策会議

ER改革委員会が発足

川崎幸病院の年間救急車受け入れ件数は、平成25年度では9,593件であり、全国で第5位でした。

川崎幸病院のERシステムは全国レベルで評価され、日本のトップクラスの救急医療を実現しています。特にEMT科の設置が、このシステムの目玉です。しかし、斬新なERシステムであるだけに未経験の問題が次々と生じますが、全国のERでは見本となる解決法は見当たりません。

川崎幸病院では、独自でERにまつわる諸問題を解決していき、イノベーションを図る「ER改革委員会」を10月6日、石井耕士・整形外科副部長を委員長として発足させました。

メンバーは、副委員長には伊藤賀敏（循環器内科）、委員として田中詩織（内科）、柳沢勇一郎（整形外科）、



ERのカンファレンス（参考写真）

津田泰任（循環器内科）、堀野誠（消化器内科）、中山幹大（外科）、長山剛太（脳神経外科）、顧問は後藤学（外科）で、計9人が構成します。

10月23日に第1回の委員会が開催され、同委員会の意義、ER業務の見直し、各診療科の提案などについて検討を行いました。

採用内定者の懇親会を開催



懇親会会場に集まった内定の皆さん

10月1日、川崎クリニックの会議室で26年度石心会の採用内定者の懇親会が開かれました。内定者は来年春に大学、専門学校を卒業予定の25人（女23人、男2人）です。

懇親会に先立ち、希望者が川崎幸病院を見学し、その後内定式とオリエンテーションが行われました。この懇親会は、来年1月にもう一度埼玉地区でも開催の予定です。

太田一也・本部総務部長
k-ota@sekishinkai.or.jp

川崎幸病院が、医療連携を図る会合を実施

整形外科病診連携の会の会場

10月3日、川崎幸病院と地域のクリニックが連携を深めるため、「第2回整形外科病診連携の会」が市内ホテルで開催されました。原淳部長の特別講演、柳沢勇一郎副部長の司会のもと、瀬戸上智行医師、石井耕士副部長による発表が行われ、その後、懇親会も持たれて医療情報が交換されました。

こうした取組みは、10月17日「第二回内視鏡スキルアップセミナー」、10月28日「川崎緩和医療



懇話会」、10月31日には、「第1回消化器外科オープンケースカンファランス」など多様な会が開催

されています。

藤田哲也・地域医療連携室室長
t-fujita@saiwaihp.jp

感染管理認定看護師教育課程の実習生受け入れ

9月16日から合計20日間、日本看護協会看護研修学校感染管理



武良主任（左）と実習生

学科の学生2人が臨地実習に来ました。実際の感染管理認定看護師（CNIC）の活動・業務内容の見学、病棟・透析室での医療関連感染サーベイランスの実践等を行いました。

整形外科病棟のサーベイランス報告会では、病棟スタッフから「日々のケアを評価して頂いたことで励みになる」との感想があ

り、学生は「忙しい中をとても優しく対応していただき感謝しています。

また、具体的なイメージや今後の課題や目標が、実習を通じて明確にすることができました。」と感想を話していました。今後のお二人の活躍に期待しています。

武良由香・医療安全管理室 院内感染管理主任
y-mura@saiwaihp.jp

救急隊勉強会が開催

10月27日、病院5階の講義室で救急隊勉強会が開催されました。この日の講義は、循環器内科の伊藤賀敏医師による「心臓救急について」。各消防隊から参加したのは42人でした。

同勉強会は、平成26年度すでに7回開催され、延べ388人の救急隊員が参加しています。

この勉強会の案内は、川崎市消防局と横浜市消防局に送付され、さらに関連する消防隊に送られ、参加者が募られます。

今年度のこれまでの講義は、4月「尿路結石症について」（鈴木理仁医師）、5月「救急診療のピットホール」（三枝広志医師）、6月「急性期の虚血性脳卒中」（津村貢太郎医師）、7月「川



講義する伊藤医師

崎幸病院循環器連携セミナー」（伊藤賀敏医師）、8月「急性腹症について」（中山幹大医師）でした。

藤田哲也・地域医療連携室室長
t-fujita@saiwaihp.jp

川崎幸病院・市民公開講座

講演「心臓病治療の最前線」に来場者が詰めかけました

熱心な来場者が真剣に講演を聴いていました



9月13日、ミューザ川崎シンフォニーホールで市民講座「心臓病治療の最前線～不整脈に対する最先端治療～」と題して、山寄継敬・循環器

内科副部長の講演を開催しました。会場には160人の定員をオーバーする参加者が詰めかけ、会場の都合でお断りする方がいました。

不整脈に関心を寄せる方が多いことが反映されています。

紀平浩幸・戦略広報室室長
h-kihira@saiwaihp.jp

川崎幸病院・防災訓練

消防隊との合同防災訓練

10月4日、川崎市消防局との合同防災訓練を行いました。医師、看護師、救急救命士、コメディカル、事務員など全部署から67人が参加しました。

病院で発生した火災を想定し、模擬患者さんの避難搬送と初期消火の訓練を行いました。

続いて消防隊も到着。消防隊は消火と、逃げおくれた患者さんの救出に向かい、救出した患者さんを医師、看護師、救急救命士がすぐに心肺蘇生を行い、速やかに救命処置室に搬送する



かを訓練しました。

一連の訓練の後、消火用散水栓での消火訓練、起震車による震度7の揺れの体験をしました。

植田宏幸・経営企画室課長
h-ueta@saiwaihp.jp



川崎幸病院・コメディカル部

上半期の出張報告会を実施

報告会には65人が集まり、上半期の学会や研修会等に参加した職員のレポートを行いました。

時間の都合で、1人3分という短い発表時間でしたが、スライドを工夫して学会や研修会で各部署

がどのようなことを学んでいるのか、チーム医療の横の繋がりをさらに深めていくような報告をしました。

佐藤政延・コメディカル部長
m-satou@saiwaihp.jp



川崎幸病院・看護部

川崎市看護協会転地療養事業に支援看護師を派遣

川崎市では公害病被認定者転地療養事業を行っています。千葉県館山市にある休暇村にて3泊4日で、公害病被認定者の健康の回復・保持及び増進を図ることを目的として開催されます。

事業実施期間中の看護業務として、①健康観察、②健康管理、③救急処置、④医薬品、医療器材の安全管理と保管などを行います。

看護部では、川崎市および川崎市看護協会から委託を受け毎年2

名の看護師を派遣しています。今年度は、山岸優子、森銀次の両救急外来看護師を派遣しました。

佐藤久美子・看護部長
k-sato@saiwaihp.jp



川崎幸病院・看護部

日本看護学会・看護教育学会にシンポジストとして参加

9月18、19の両日、新潟県の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで「第45回日本看護学会—看護教育—学術集会」が開催されました。

2日目の「交流集会Ⅱ」では、佐藤久美子・看護部長がシンポジストとして登壇しました。テーマは「施設内教育を整備する—継続教育の基準 ver.2活用のためのガイ

ドを使いこなす—」でした。

この交流集会には、750名の看護師が参加し、活気ある集会でした。



埼玉石心会病院

第1回狭山地区在宅推進チーム会議を開催

埼玉県・狭山地区での在宅医療に力を入れようと、埼玉石心会病院では10月15日(水)、第1回狭山地区在宅推進チーム会議を開催しました。

狭山市内の医療機関9施設から医師11名、埼玉石心会病院からはスタッフ10名が出席。狭山市医師会長の廣澤信作先生と狭山市介護担当理事の青山壽久先生を中心に、狭山地区での在宅医療について話し合いました。

第1回会議では、具体的なモデル事業として「グリーンティ在宅ネット」を提案しました。内容としては、まず事務局を設営し、狭山市をエリア別に分けエリアごとに往診医を募り、その中から在宅の患者さん一人一人に主治医・副

主治医の計2名を配置し、情報の一元管理をするシステムです。

提案した詳細は、

- (1) 在宅主治医・副主治医マッチングシステム(医師のコーディネート)
 - (2) 24時間365日在宅医療対応バックアップシステム(輪番バックアップ導入)
 - (3) 病院による在宅医療支援システム(後方支援病床の確保)
- の三点です。

今後、本年12月に『病院間連携懇談会』を開催し、狭山市内7病院を招いて、在宅患者のための後方支援病床の確保・運用方法について検討する予定です。

石塚翔太・地域医療連携室
tiiki@saitama-sekishinkai.org



<出席者>

院外の医療機関9施設から医師11名
青山壽久(埼玉石心会病院・医師)、菅野壮太郎(同)、谷川亮二(同)、堂東早苗(入間川・入間川東地域包括支援センター所長)、中野友子(石心会介護支援センター所長)、菅原ますみ(埼玉石心会病院・入院調整看護科長)、柴崎陽子(ソーシャルワーカー室長)、山口千尋(社会福祉士)、小川宏行(地域医療推進室室長)、及川雄太(同室係長)、石塚翔太(同室)、瀬戸島僚(同)、青木美佳(さやま総合クリニック患者サービス課係長)

埼玉石心会病院

緩和ケア病棟で、お食事バイキングを実施

埼玉石心会病院の栄養室では、緩和ケア病棟での取り組みとして毎月1回「ランチバイキング」や「デザートバイキング」を実施しています。更に、毎日11時までにオーダーするとラーメンやそば、うどんなどを外食の様に配膳する「さやま亭」という取り組みも行っています。

食事は患者さんの楽しみの一つであり、また家族と一緒に楽しむを共有できることから、精神的な緩和医療の一部になることを目的としています。

ランチとデザートはその時に入院している患者さんの食事摂取レベルに合わせて、緩和ケア病棟の

医師及び看護師と相談し決定しています。メニューは担当調理師が季節に合わせ起案し、担当栄養士と相談し決定しています。

「最後の食事になるかもしれない一口」を提供できることを、当院の調理師は誇りに思い、心をこめて提供しています。

秋山好美・栄養室長
yoshimi-akiyama@saitama-sekishinkai.org



<緩和医療とは(WHO定義)>

生命を脅かす疾患による問題に直面する患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的な問題、さらにスピリチュアル(宗教的、哲学的なところや精神、靈魂、魂)な問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛を予防し、また和らげることで、QOL(人生の質、生活の質)を改善する行為である。

さやま総合クリニック

さやま総合クリニック、キッズ外科セミナーを開催



子供たちに『将来、自分も命を救う医師や医療に携わる仕事に就きたい』という夢を持って頂くというコンセプトをもとに、さやま総合クリニックでは10月12日(日)、小学校5・6年生、中学校1・2・3年生を対象にキッズ外科セミナーを開催いたしました。

子供たちの指導は、埼玉石心会病院の堤謙二副院長(消化器外科部長兼)を筆頭に、外科スタッフと研修医で行いました。

セミナーを通して、子供たちからは「すごく楽しい」、「今回の経験でもっと医者に興味が湧いた」など嬉しい言葉を聞くことが出来ました。また、子供たちの真剣な表情や、楽しそうな笑顔を見ていると、私達自身とても癒されました。

さやま総合クリニックでは皆様のお力添えをいただきながら、地域の中核医療機関として、医療を通してより一層の地域貢献を図って行きます。

関雅昭・患者サービス課
masaaki-seki@saitama-sekishinkai.org



<セミナー内容>

1. 手術縫合体験 ※人工皮膚を用いた手術縫合体験
2. 模擬手術体験 ※自動縫合器体験
3. 内視鏡トレーニング体験 ※トレーニングボックスで輪ゴムやビーズの把持や移動操作を体験する(タイム計測)
4. 最新医療機器体験 ※超音波メス(本物の器機を使用し鶏肉を切ります)

ヘルシーコンサート、芸術の秋・特別版を開催

さやま総合クリニックでは、地域住民の方とのふれあいを目的に、毎月土曜夕方にヘルシーコンサートを行っております。今回は「芸術の秋・特別版」として、10月12日(日)の午後に、2公演を行いました。

第1部は、「牧野ルル子さんによるチェロと内田なおこさんによるピアノデュオコンサート」。エルガーの『愛のあいさつ』やショパ

ンの『ソナタ 第2楽章』を演奏。美しい音色に大勢の方が耳を傾けました。

第2部は、「門馬由哉さんによるギターと菅谷詩織さんによる鍵盤ハーモニカによるデュオコンサート」。『エンターテイナー』やショパン作曲の『ノクターン op.9-2』、『明日があるさ』などクラシックから歌謡曲まで幅広いジャンルの曲を演奏。菅谷詩織さんの鍵盤ハー

モニカとピアノを同時弾く演奏で楽しませてくれました。

連休にも関わらず、総来場者数125名とたくさんの方に来場頂き、大盛況となりました。今後もヘルシーコンサートを通し、地域の方々へ心の癒しを提供し、医療とはまた別の面で地域に貢献して行きたいと思います。

梶原陽介・患者サービス課
yousuke-kajihara@saitama-sekishinkai.org

第1部

「チェロ&ピアノ デュオコンサート」

出演：牧野ルル子(チェロ)、内田なおこ(ピアノ)

曲目：エルガー「愛のあいさつ」

ショパン「ソナタ 第2楽章」

カサド「親愛の言葉」

「星に願いを」 他

参加：76名



牧野ルル子：東京芸術大学器楽科卒業。第50回NHK・毎日音楽コンクール入選。西独ケルン音楽院に留学後、渡米、オハイオ州コロンバス市においてプロムジカ チェンバー ミュージック オーケストラに5年間在籍。尚美学園大学オーケストラ演奏員、東京ハルモニア室内オーケストラなど、フリーでオーケストラ、室内楽などの分野で演奏活動を行う。

内田なおこ：国立音楽大学卒業、同大学院修士課程修了。ポーランド・ワルシャワ音楽院(現ショパン・アカデミー)終了。ワルシャワその他各地でリサイタル、演奏会、ラジオ放送、ポーランド建国演奏会等に出演。

第2部

「ギター&鍵盤ハーモニカ デュオコンサート」

出演：門馬由哉(ギター)、菅谷詩織(鍵盤ハーモニカ)

曲目：「エンターテイナー」

ショパン「ノクターン op.9-2」

「明日があるさ」 他

参加：49名

門馬由哉：中学校よりエレクトリックギター、高校2年生よりクラシックギターを始める。2012年G L C 学生ギターコンクール優勝。2014年札幌 Park Jazz Contest優勝。ライブ、サポート演奏、レコーディング、レッスンと他方面で活躍。

菅谷詩織：昭和音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ演奏家コース卒業。6歳からピアノ、12歳からサックスを始め、私立普通高校の音楽コースにサックス専攻として入学し、2年次にピアノ専攻に転向。2012年ピティナピアノコンペティション(Yaカテゴリー)全国決勝大会入選。ピアノと鍵盤ハーモニカで、クラシックにおける演奏・指導、また、ポップにおいてもアーティストのサポート活動に取り組んでいる。



埼玉石心会病院・職員旅行を実施

「楽しかった職員旅行」

10月18、19日、職員旅行に行ってきました！

天気に恵まれ、1泊2日、千葉県鴨川市にある小湊鯛の浦温泉、鴨川シーワールド&陶芸絵付け体験に行ってきました。

行きのバスの中で、お酒とおつまみ、ジュースにお菓子と早速宴会モードで盛り上がっていききました。渋滞もなく、順調にホテルに……と思いきや、ホテル到着間際にトイレ休憩。太っ腹の〇〇さんは、皆にコロケ、メンチカツを振る舞い、私たちも、『ごちそう様でした!』とおおはしゃぎ。知らない観光客にも「アイスクリームをおごっちゃうぞ〜!」の勢いでした(笑)。

そして、ホテルに到着。早速、お風呂に入って夜の宴会に備えます。ご存じですか? ホテル〇〇には、金風呂、



銀風呂があるんです。お肌にいい? 効果はあるの? と半信半疑でしたが、『やっぱり入ってみたい』。ちょっとだけ、セレブ気分を味わいました。浜風を感じる露天風呂は、いい感じ。日頃の疲れが癒されました。

さて、お待ちかねの宴会です! おいしいお酒とお料理に舌鼓。それぞれの部署が準備した出し物で大笑い! 日頃からのお世話になっている方々や初対面の職員の方と交流を深めることができました。残念ながら宴会に姿を見せなかった職員もちらほらいましたが……、お互いの笑顔で元気をチャージです。

2日目は、鴨川シーワールドに行ってきました。シャチの曲芸やブリーチングに歓声が上がります。シャチは元々、『海のハンター』と言われていて、獐猛な動物で、天敵もいないそうです。時には、自分の体格より大きいクジラも襲い、捕食します。頭もよく、集団で狩りができ、アザラシなど大型の生き物を食べて冷たい海にいます。マーメードのお姉さんの指示通りに動くシャチに驚きました。どうやって、しつけるのかしら?

シーワールドの中には、水族館も



あり、熱帯魚やカメ、淡水魚、クラゲなどいろいろな生物が展示されていました。特に気に入ったのは、熱帯魚の泳ぐ展示館でした。日頃、あまり目にしない鮮やかな色彩の小さな魚の美しさやかわいらしさに、またまた『癒やされるう〜』。

午後からは、陶芸絵付け体験に行きました。工房で素焼きされたカップや湯呑、お皿にパステルや絵の具を使って絵付け体験しました。皆、思い思いの絵を描いていました。仕事以外にも『こんなに真剣になって……』と埼玉石心会病院職員の「何事にも真剣に取り組む姿勢」が伺えました。褒めすぎ? でしょうか。作品が送られてくるのが楽しみです。

2日間、ケガなどのトラブルもなく、無事に帰ってくることができ、とにかく、楽しい思い出を職員の皆さんと一緒に作ることができました。ありがとうございました。

武内三枝・小林比呂子
埼玉石心会病院看護部